

極秘

參一發第四十一號

大正七年十月三日

參謀總長



北滿方面ノ情況

一、在哈爾濱步兵第三十七聯隊ノ一甲隊ハ十月二日未明出發

ホクランニ「チナヤ」ニ向ヒ派遣セラレタリ

二、黑河方面ニ派遣セラレタル船橋支隊九月十八日より同二十

日ノ間ニ於ケル主要ナル鹵獲品詳細尤、如シ

汽船五隻、貨車約三十輛、自動車五輛、小銃五

百十二、機關銃一、銃劍百一、槍約千二百

電話機二、圖匙四十六、彈藥十七箱

其他多數ノ小銃拳銃實包

右ノ外野瀨支隊ノ歩兵ト共ニ鹵獲セルモノ小銃六十六、銃劍

十五、拳銃一尊アリ

伊藤

極秘

參一發第四十二號

第一課
第二課

金川

派發

大正七年十月四日

參謀總長

黑龍、沿海兩州方面情況

黑龍州方面情況

一、我第十二師團山田支隊、騎兵聯隊ト策應シ「ゼーヤ」河ヲ溯航中ナリシ同支隊堀少佐、指揮スル船團ハ九月二十八日正午「ダンブーキ」上流ニ里半ノ地點ニ於

テ軍需品ヲ積載セル敵汽船ニ追及シ直ニ之ヲ捕獲セリ

二、山田少將ハ其司令部ト共ニ九月二十九日午後八時「ゼーヤ」市ニ到着セリ

三、「ゴラソエフスキー」(「ダンブーキ」西方約十三里)西方ニ於ケル入箇所、金鑛ニハ何レモ

敵兵ナク「ソカライ」金鑛ニ在リシ敵ハ「ダンブーキ」附近ニ我軍、到着スルヤ既ニ該

金鑛ヲ撤退シテ逃走シ九月二十七日午後山田支隊歩兵第十四聯隊ノ中隊(長

大尉石川脩爾)同地進入ノ際ハ敵影ナク住民ハ白旗ヲ掲ケ一般ニ好意ヲ以テ

歡迎シ金鑛主宰者(波蘭人)及其職員モ表面我ニ對シ頗ル好意ヲ示シタリ

軍務局

7.10

7.10

經理局授受

軍務局授受

官房授受

0685

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

四、アレキセーフスク⁷附近ニ於テ我軍ノ手ニ收メタル俘虜及鹵獲品中主要ナルモノ
左ノ如シ

(イ) 俘虜、獨逸國人四名、露國人三百十四名及支那國人一名

(ロ) 鹵獲品中ノ主要ナルモノ、火炮二十三門、機關銃二十九銃、迫撃砲四門、小銃六千八十、手榴彈千三百發、探照燈、並最新型飛行機各一、汽船九隻、圍平船七隻、自動車十六輛(双直ニ使用シ得ルモノ六輛)、測量機一、機關車二輛、客車三百三十一輛及通信器材糧秣被服若干

五、黑龍鐵道幹線ハ西ハ「ルコオ」迄又同鐵道「ウラユウ」ニ至ルニ支線全部ハ共ニ
十月二日開通スルニ至リ

沿海州方面情況

一、從來沿海州方面ニ在リシ英佛軍各一大隊ハ各一中隊ヲ浦潮ニ殘置シ英軍ハ
九月三十日佛軍ハ十月一日孰シモ「ニコリスク」出發哈爾濱方面ニ輸送セラレ
タリ

0686

參一發第四十三號

大正七年十月四日

參謀總長

極秘

後貝加爾州方面ノ情況



一、十月一日迄ニ第三師團行動地域内ニ到着シタル兵力歩兵四大隊半
及工兵二小隊ニシテ師團長ハ内歩兵三中隊ヲ「子ルチンスク」附近ニ
同ニ中隊ヲ「ウエルフ子ウーゲンスク」附近ニ配置シ又同三中隊ヲ以テ鐵道
沿線ノ守備ニ任シ殘餘ハ之ヲ「チタ」ニ位置セシム
二、將末ノ為第三師團長、取ラントスル同師團配置ノ概要左ノ如シ

(イ)「子ルチンスク」及「スレーテンスク」附近

歩兵第五旅團長(少將中屋劍哲)ノ指揮スル歩兵二大隊、

騎兵一中隊、野砲兵二中隊、工兵一中隊(一小隊也)及輜重ノ一部

(ロ)「ウエルフ子ウーゲンスク」附近

歩兵第三十旅團長(少將吉江石之助)ノ指揮スル歩兵三大隊、

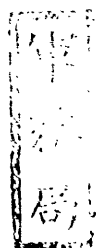
0687

(1) 騎兵二中队、野砲兵四中队、工兵二小队及輜重ノ一部
 (2) 師團司令部及其他(残餘)
 (歩兵六中队、山砲兵四中队、野戰重砲隊、工兵二小队、航空隊及輜重ノ大部等)

0688

78/10

出動部隊一覽



覽

極秘

參一發第四十四號



通

報



參謀總長

大正七年十月五日

本年八月帝國ノ露路領出矣以來我出動部隊及其隸屬關係ニ就キテハ其都度通報セシ所ナリト雖モ爾後或ハ小部隊ノ増派セラレタルモノナリ或ハ彼此隸屬ノ變更セラレタルモノアリテ現下ニ於テハ我出動部隊及隸屬關係ハ本號附表ニ示スカ如キ情況ニ在リ



7.10.16
官廳受領

0689

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

極秘

參一發第四十五號

大正七年十月七日

參謀總長

~~秘~~

(10)

黑龍州及北滿方面ノ情況

黑龍州方面ノ情況

第一課
第二課

一、九月十九日午前「アレキセフスク」東方鐵道橋附近ニ於テ我騎兵第十二聯隊
 主力支援歩兵中隊ヲ含ムト交戦セシ敵砲艦七隻ヲ乘リテアリシ過激派兵約二
 百名ノ敗殘兵約十名其後「マクサキチ」附近ニ在リシカ最近我歩兵第四十七聯隊
 第一大隊ノ中隊同地ニ到着スルヤ山中ニ遁逃シ該地附近部落ニ敵ノ隻影ヲ
 認メス同中隊ハ「マクサキチ」ニ於テ小銃約六十ヲ鹵獲セリ

二、我騎兵第十二聯隊ノ中隊ハ「ゼーヤ」河支流々域ニ於ケル敵情搜索目的ヲ
 以テ九月二十日午前七時三十分「アレキセフスク」出發セ「ヤ」河右岸ニ沿ヒ前進セリ

三、「ウスキイラ」(「ノイラ」河ト「ゼムヂヤ」河トノ合流點)及其上流約二十五里間ニ敵
 兵ヲ「マストイカ」(「ウスキイラ」上流約五十里)及「ゼムヂヤ」河上流「ウオスクセン

7.10. 8
官房受領

0691

軍務局受

7.10. 8

スキム帯地域ニ金鑛多ク是等金鑛ニ過激派兵約五百名及獨塊
俘虜約五十名アリト

四、ツイグダ以西第三師團行動地域ニ於テ黑龍鐵道ノ守備任スキム兵
第四十七聯隊第三大隊(中隊欠)ハ二十六日「ル」オニ於テ從來守備任ニア
リシ第七師團及第三師團ノ部隊ト交代ヲ了セリ

北滿方面ノ情況

九月三十日及十月一日「ニコリス」ヲ出發東清鐵道ニ依リ西進セシ英軍
及佛軍ハ十月二日及三日哈爾濱ヲ通過シ英軍ハ「クラ」ノヤールスク「ア」
チンスクニ直行シ上記兩地ニ分屯シ佛軍ハ一時布哈圖ニ滞在シタル後
西方ニ輸送セラル、等又目下北滿洲ニ在ル「チエ」クモ早晚西方ニ輸送
セントスルモノ、如シ

0692

重本

極秘

參一發第四十九號

通

報

大正七年十月十日

參謀總長

十月上旬ニ於ケル在極東露領聯合軍兵力配置ノ概要別
紙要圖ノ如シ

參一發第四十八號中正誤

黑龍州方面情況

第一行、步兵第七十一聯隊長(大佐田所成恭)ハ

步兵第四十七聯隊長(大佐丸野勝喜)ハ、誤ニ付

訂正ス

7.10.11

官房受領

0693

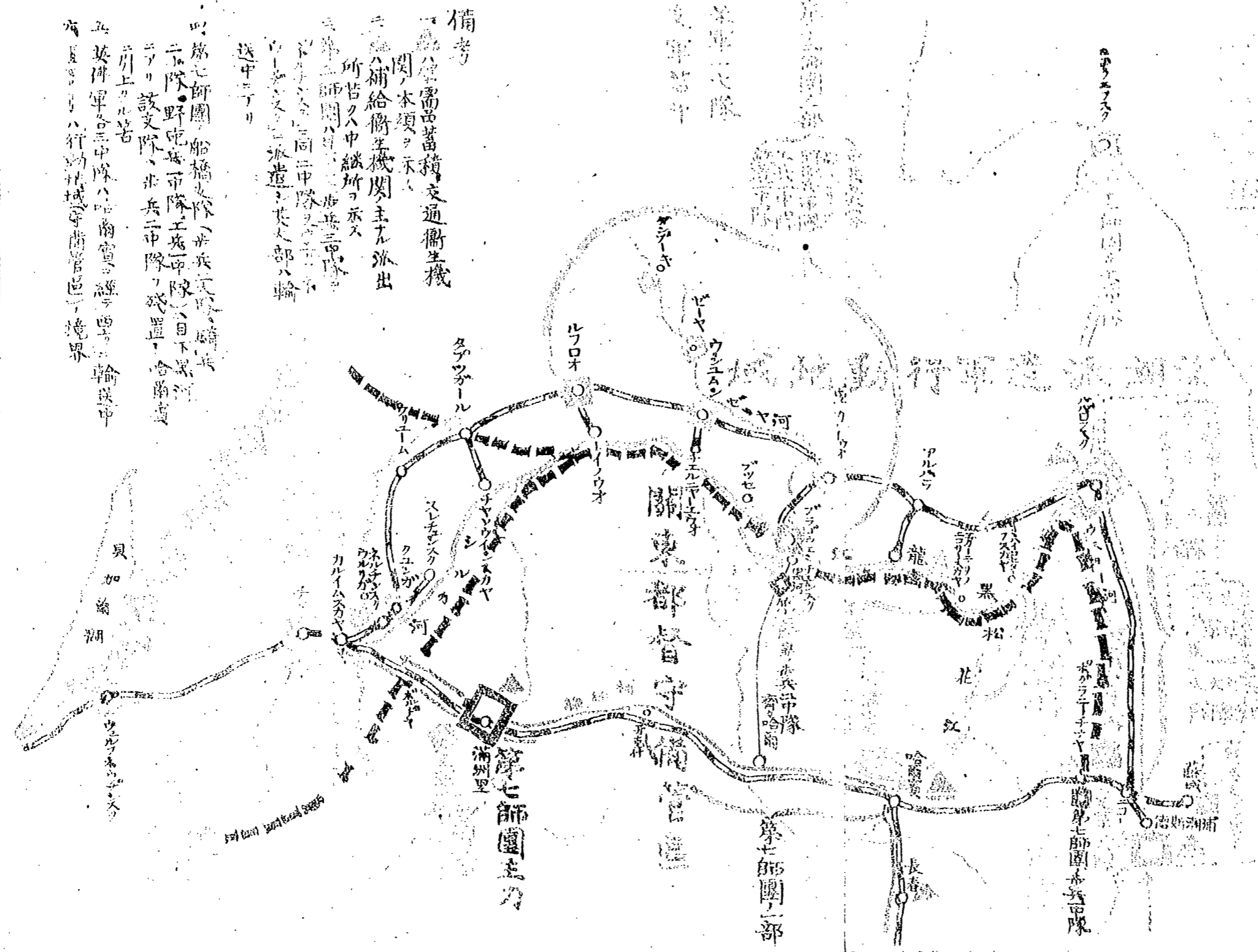
圖要置配力兵軍合聯領露東極

(此乃於一月七日中)

3,401,000

一 第七師團 船橋支隊ノ兵ヲ支隊ノ轄ニシテ
 二 隊 野屯軍市隊工兵一中隊ノ目下ニ駐
 三 リ 該支隊ノ兵ニ中隊ヲ發遣シ 合防置
 四 引上ルル也
 五 英海軍各三中隊ハ 南濱ニ駐シ 西ノ 輪渡中
 六 隊ニシテ 八 行動地域守備管區ニ 境界

備考
 一 總司令部 備蓄積 交通衛生機
 二 關ノ本須ヲ示ス
 三 補給衛生機關主ヲ派出
 四 所管久中 綴所ヲ示ス
 五 第七師團ハ 歩兵三三隊
 六 砲兵一中隊 同三三隊
 七 工兵一中隊 同三三隊
 八 衛生隊 同三三隊
 九 派遣 其大部ハ 輪
 十 送中ニテリ



此圖係一月七日中
 參謀本部第一課

0694

極秘

參一發第五十號

極秘

大正七年十月十一日
參謀總長

黒龍沿海兩州方面ノ情況

切

軍務局

第一課
第二課

一、第十二師團長ハ十月五日頃ヨリ北方ニ向テスル追撃ヲ中止シ將來概ホ左ノ

配備ヲ以テ殘敵ノ掃蕩、治安ノ維持及秩序ノ確立ニ努ムル筈ナリ

(一) 平田支隊(長歩兵少佐平田伊助、歩兵一大隊)ハ後貝加爾、黒龍兩州ノ

境界ヨリ「ツイグダ」ニ至ル間、鐵道沿線及上記州界ヨリ「オリガ」河ト黒

龍江ト、合流點迄ノ沿岸ヲ警備ス

(二) 丸野支隊(長歩兵大佐丸野勝喜)ニテ歩兵一大隊半及騎兵一小隊ヲ基

幹トス。ハ主トシテ「ゼーヤ」地方及「ツイグダ」ヨリ「アレキセフスク」東側鐵橋ニ

至ル間、鐵道沿線及「ベンゾフスキー」(アレキセフスク)西南約十里)ヨリ上流ノ

「ゼーヤ」河並「セレンシヤ」河沿岸ヲ警備ス

(三) 山田支隊(長少將山田四郎)ニテ歩兵一大隊半、騎兵一中隊(一小隊欠)及

極秘

7.10.12
官房受領

0695

7.10.12

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

山砲兵一大隊(一中隊欠)ヲ基幹トス。ハ其司令部ヲ「ツラゴウ」ニシテ「置キ主
 トシテ「バンゾフスキ」以南ノ鐵道沿線及同地ヨリ下流ノ「ゼーヤ」河並「フツセ」(「ツンツ
 フスキ」西方約十里)ヨリ下流「ビラ」河合流點ニ至ル間ノ黒龍江沿岸ヲ警備ス
 (四) 田中文隊(長歩兵少佐田中勝輔)歩兵一大隊(「ゼーヤ」河鐵橋ヨリ「ビラ」ニ至ル間ノ
 鐵道沿線ヲ警備ス
 (五) 「ビラ」支隊(米國軍歩兵一大隊)ハ「ビラ」ヨリ「ホクロフカ」ニ至ル間鐵道沿線ヲ警備ス
 (六) 鹿島支隊(長歩兵少佐鹿島久治)歩兵一大隊(一中隊欠)ハ「コロエフスキ」ニ
 位置レ主トシテ「ゴリン」河合流點以北ノ黒龍江沿岸ヲ警備ス
 (七) 航空隊及輜重ハ「スパスカヤ」附近ニ又爾餘ノ諸隊ハ「ハハロフスキ」ニ位置ス
 以上配置ヲ終ルハ遲クモ十月二十日頃ノ豫定ナリ
 十月三日ヲ以テ沿海州方面ヨリ哈爾濱ニ到着セシ佛國軍歩兵三中隊及曩ニ
 東京ヨリ浦潮ニ輸送セラレ十月七日ヲ以テ浦潮出發西進シタル同野砲兵
 一中隊ハ何レモ鐵道ニ依リ直路「チエリヤ」ニ向ヘリ

長

極秘

參一發第五十一號

大正七年十月十五日

參謀總長

(不)

通報

一、第二自動車隊ヲ關東都督、隸下屬スル該部隊ハ十月九日頃宇品港ヲ發シ北滿洲方面ニ輸送セラル、等

二、參一發第四十四號出動部隊一覽表中關東都督隸下部隊ハ爾後左ノ如ク配屬ヲ變更セリ

關東野戰建築部 第一野戰防疫部及臨時鐵道聯隊第一大隊(一中隊欠)缺ヲ關東都督ノ直屬トス

爾餘、兵站所屬部隊及臨時患者收容班ヲ關東都督兵站

監配屬ス



7.10.15 官用受領

軍務局發 7.10.15

0697

~~陸軍~~

極秘

參一發第四十六號

大正七年十月八日

參謀總長

黑龍州方面、情況

軍務局

①

②

我^カダンブ^キ守備隊長(歩兵第七十二聯隊第土中隊長)ハ有カナル敵
 兵^カクラスノス^キテ^コフ^ク上陸點(ダンブ^キ下流約二里)ノ東方約一里オ
 モ^カ湖附近ニ在リトノ報ニ接シ十月二日部隊ヲ派遣シタルニ該部隊ハ
 ンブ^キ東南約三里ノ地ニ於テ約三十名ト遭遇直ニ之ヲ攻撃シテ其
 十六名ヲ斃シ十四名ヲ捕獲シ三日午後八時ダンブ^キニ歸還セリ
 我ニ死傷者ナシ

古賀

7.10. 9
官房

極秘

參一發第四十七號

大正七年十月八日

參謀總長

通

報

綏芬河朝鮮國境間ノ電線ヲ掩護スル爲朝鮮軍司令官ヲシテ左
記部隊(應急準備ニ準ス)ヲ沿海州ニ派遣セシメラレタリ

歩兵第七十四聯隊ノ一大隊

騎兵第二十七聯隊ノ二小隊

工兵第十九大隊ノ一中隊

該部隊涉外事項ニ關シテハ浦潮派遣軍司令官ノ區處ヲ受ク

0699

極秘

參一發第四十八號

大正七年十月九日

參謀總長



黒龍後貝加爾兩州方面ノ情況

黒龍州方面ノ情況



軍務局



第十二師團ノセーヤ支隊ハ歩兵第七十二聯隊長(大佐田所成恭)指揮
 スル歩兵一中隊野砲兵一中隊ヲセーヤ市ニ置キ同地及其附近ノ掃蕩及
 整理ニ任シ歩兵一大隊(一中隊欠)騎兵一聯隊(一中隊欠)及特種砲兵ヲ以テ
 ダンブーキ(セーヤ)北方約二十里「ウラジシルスキー」(ダンブーキ)東北方約
 四十里「ゲオルギエフスキー」(ウラジシルスキー)西北約二里沿道數里ニ亘ル
 敵ヲ掃蕩中ナリシモ敵ハ支離滅裂トナリテ四散シ追及スルモ價値少
 味整列リテ以テ十月五日頃ヨリ北方ニ向テスル追撃ヲ中止シ「ダンブーキ」
 ニ歩兵一中隊「ウラジシルスキー」ニ歩兵一中隊(一小隊欠)機關銃一小
 隊騎兵半小隊「ゲオルギエフスキー」ニ歩兵一小隊ヲ殘置シ其他ハ「セ

7.10
官印

イヤ市ニ歸還セリ

後貝加爾州方面ノ情況

從來「ホルヂヤ」(滿洲里西北約三十里)以西ノ守備ニ任セシ第七師團ノ
部隊ハ「アガ」(滿洲里西北約七十里)停車場司令部要員ヲ除ク外悉
ク第三師團ノ一部ト交代シ十月六日滿洲里ニ歸著セリ

0050

0701

軍務局

~~極秘~~

極秘

參一發第四十九號

(大)

通

報

十月上旬ニ於ケル在極東露領聯合軍兵力配置ノ概要別紙要圖ノ如シ

大正七年十月十日

參謀總長

參一發第四十八號中正誤

黑龍州方面情況

第一行、步兵第七十二聯隊長(大佐田所成恭)

步兵第四十七聯隊長(大佐丸野勝喜)ノ誤ニ付

訂正ス

0702

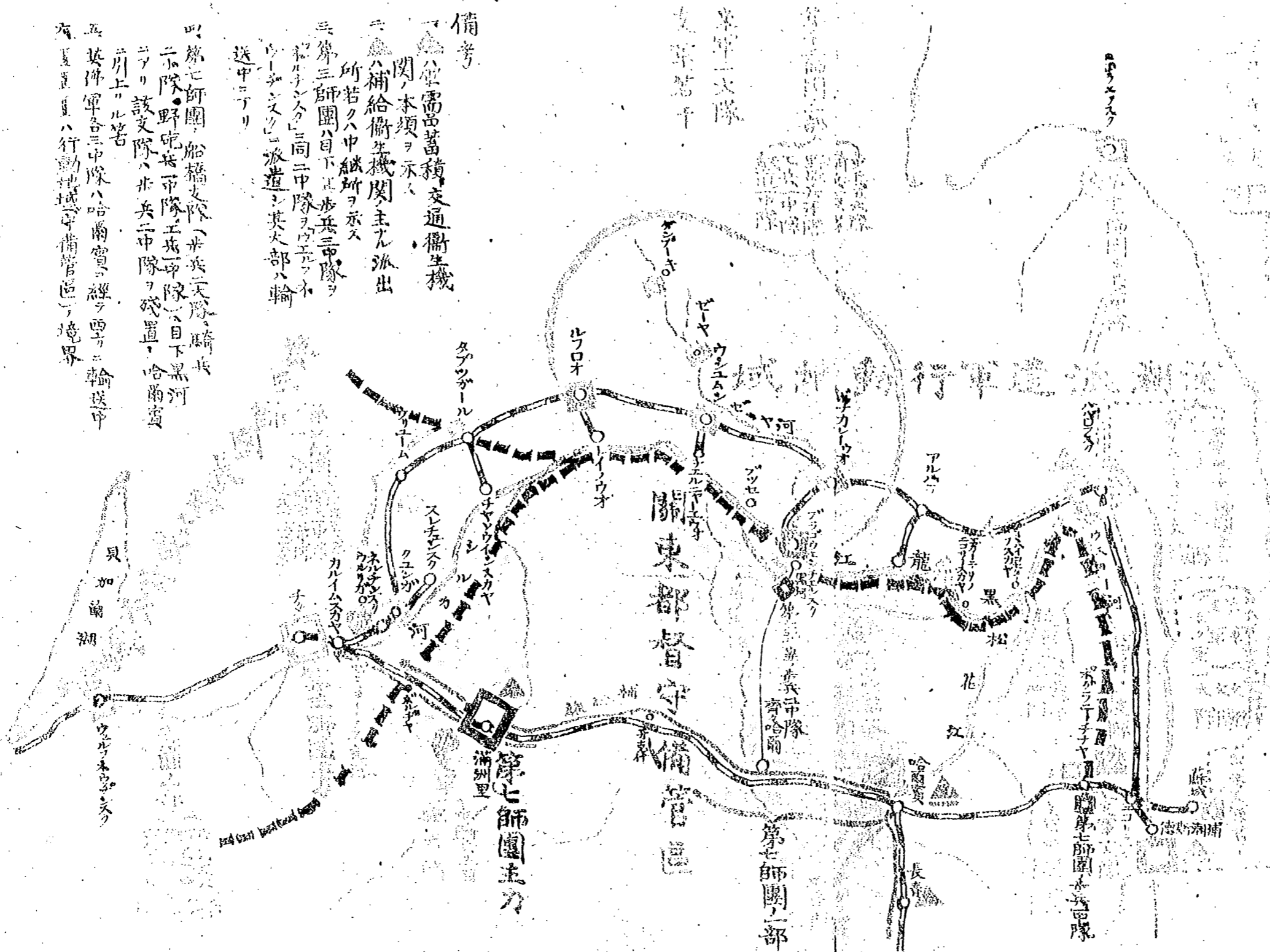
樞東露領聯合軍兵力配置要圖

(中上旬に於ける)

8,906,000

一 第七師團 船橋支隊 (非兵天降騎兵)
 二 隊 野屯兵 甲隊 乙隊 丙隊 (目下黒河)
 三 隊 該支隊ハ非兵二中隊ヲ設置 哈爾濱
 四 引上ルル者
 五 英佛軍各三中隊ハ哈爾濱經ラ四方ニ輸送中
 六 夏置重八行動地域守備管區ヲ境界

備考
 一 糧食需品蓄積 交通衛生機
 関ノ本須ヲ示ス
 二 八補給衛機関主九派出
 所若クハ中継所ヲ示ス
 三 第三師團八目下ニ非兵三隊ヲ
 和ハシメテ同二中隊ヲウケテハ
 少シシテ之ニ派遣シ其大部ハ輸
 送中ニナリ



大正十一年十月十四日印刷
 參謀本部第一課

0703

軍務局

水

編第十四號

一日ハ十月十日ナリ

第一師團ニ於テ第二自動車隊ノ編成ヲ令セラル編成第

大正七年十月十日午後四時

(水)

陸軍大臣 田中義一

海軍大臣 加藤友三郎殿

(水)

(水)

陸軍

10.11
房受領

0704

供覽

極秘

參一發第五十二號

大正七年十月二十四日

參謀總長

通報



第三師團長ハトムスクトホリスク縣界以東ノ諜報勤務ニ服
セシムヘキ目的ヲ以テ一機関(長武藤少將)及其護衛トシ
テ歩兵一中隊機関銃一小隊ヲイルクワークニ派遣セリ該機
関及部隊ハ十月十二日目的地ニ到着シ同地官民ノ盛ナ
ル歡迎ヲ受ケ其任務ニ就ケリ

軍務局

第二課

小牧



0705

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp



極秘

第一發第五十三號

大正七年十月二十五日

參謀總長

第一課

龍州方面

情況



軍務局

十月十九日スレドウ子ベイヤヤ(ホチカレ)オ西南約十里停車場附近於テ約五十ノ過激派兵現出シ同地ノ守備ニ任セシゴサワク兵ヲ擊退シ其後益増加ノ徴アリシヲ以テ在ウラゴウエシチエンスク山田少將ハ同夜十一時發列車ヲ以テ步兵一中隊ヲ同地ニ派遣シ又ウラゴウエシチエンスク北方約五吉米突ヤストラハノカ附近ニモ敵兵集合シアルノ報ニ接シ步兵半小隊ヲ同地ニ急行セシメ其掃蕩ニ任セシメタリ然ルニ在スレドウ子ベイヤヤ我守備隊ノ下士以下十五ハ此敵ヲ擊退シ次ヲウラゴウエシチエンスク派遣部隊ト協力シテ北方ニ追擊セシモ敵ハ四散シテ其踪跡ヲ晦マセリ尙獲品小銃四十

VOVO

0706

7.10.2A
管理受領

彈藥銃劍若干ニレテ我ニ損害ナレ

0070

0707

極秘

供覽

發第五十四號

大正七年十月三十日

參謀總長

7.10.30
官房受領

南部沿海州方面ノ情況

曩ニ沿海州ニ派遣ヲ命セラルル歩兵第七十四聯隊ノ一大隊、騎兵
第二十七聯隊ノ一小隊、工兵第十九大隊ノ一中隊及憲兵約四十名ハ
軍務少佐近藤秀三ノ指揮ヲ以テ「スラウヤンカ」及「ホシエツト」ニ
上陸シ十月二十七日迄ニ其配備ニ就ケリ而シテ自今該部隊ヲ南
部烏蘇里派遣隊ト稱呼ス

0708

極秘
參一發第五十五號

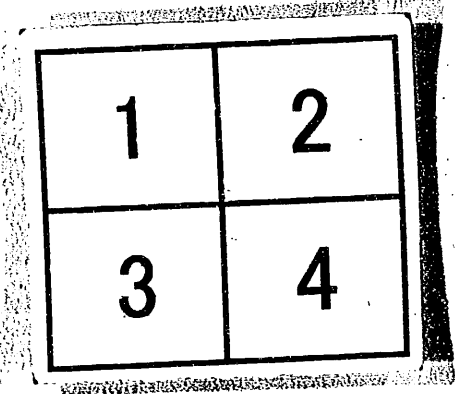
大正七年十月三十日
參謀總長

十月下旬ニ於ケル出動部隊及直接關係アル外國軍配置
、概要別紙要圖、如シ

出動部隊配置、概要

0709

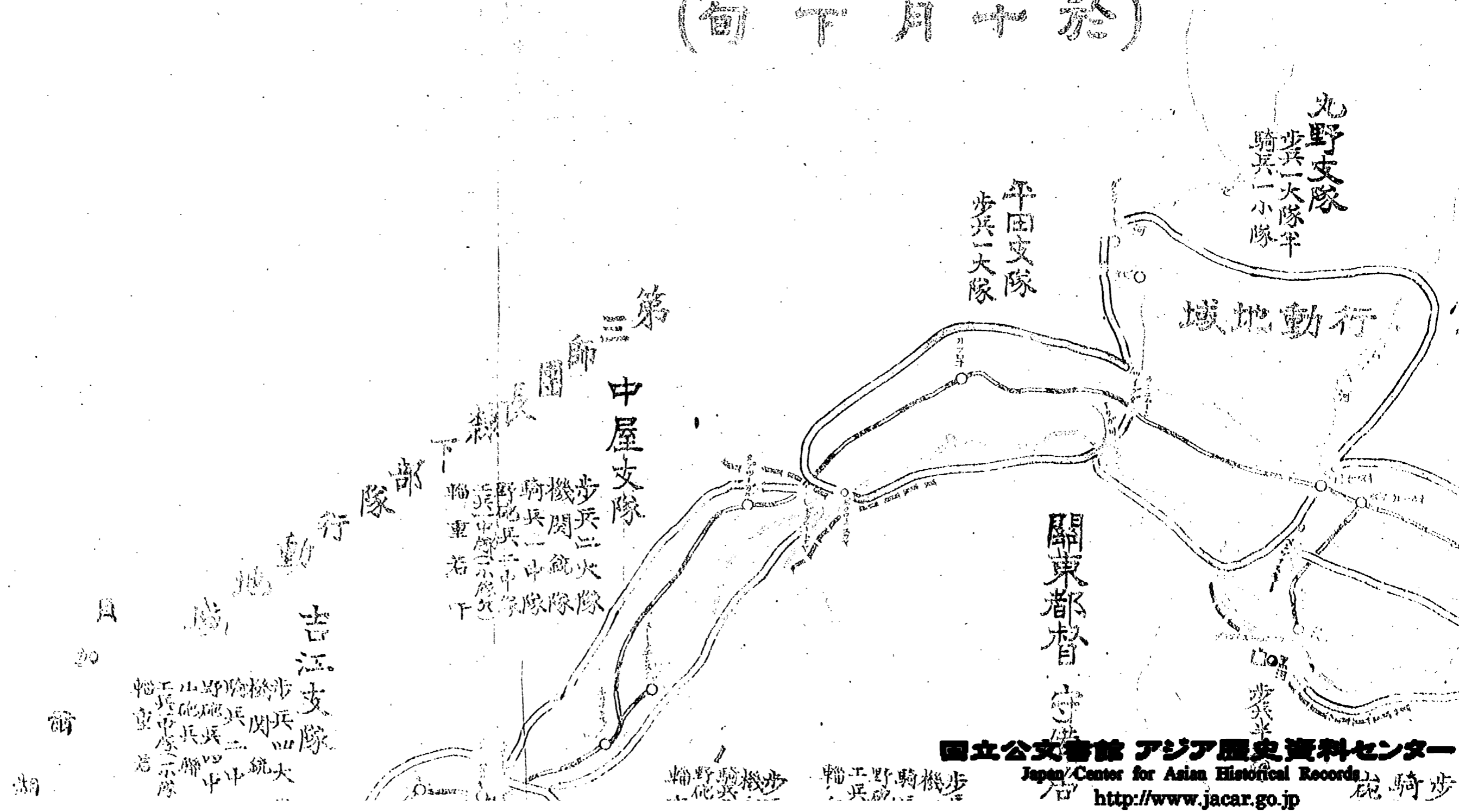
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0710
0711
0712
0713

出動部隊配置要圖

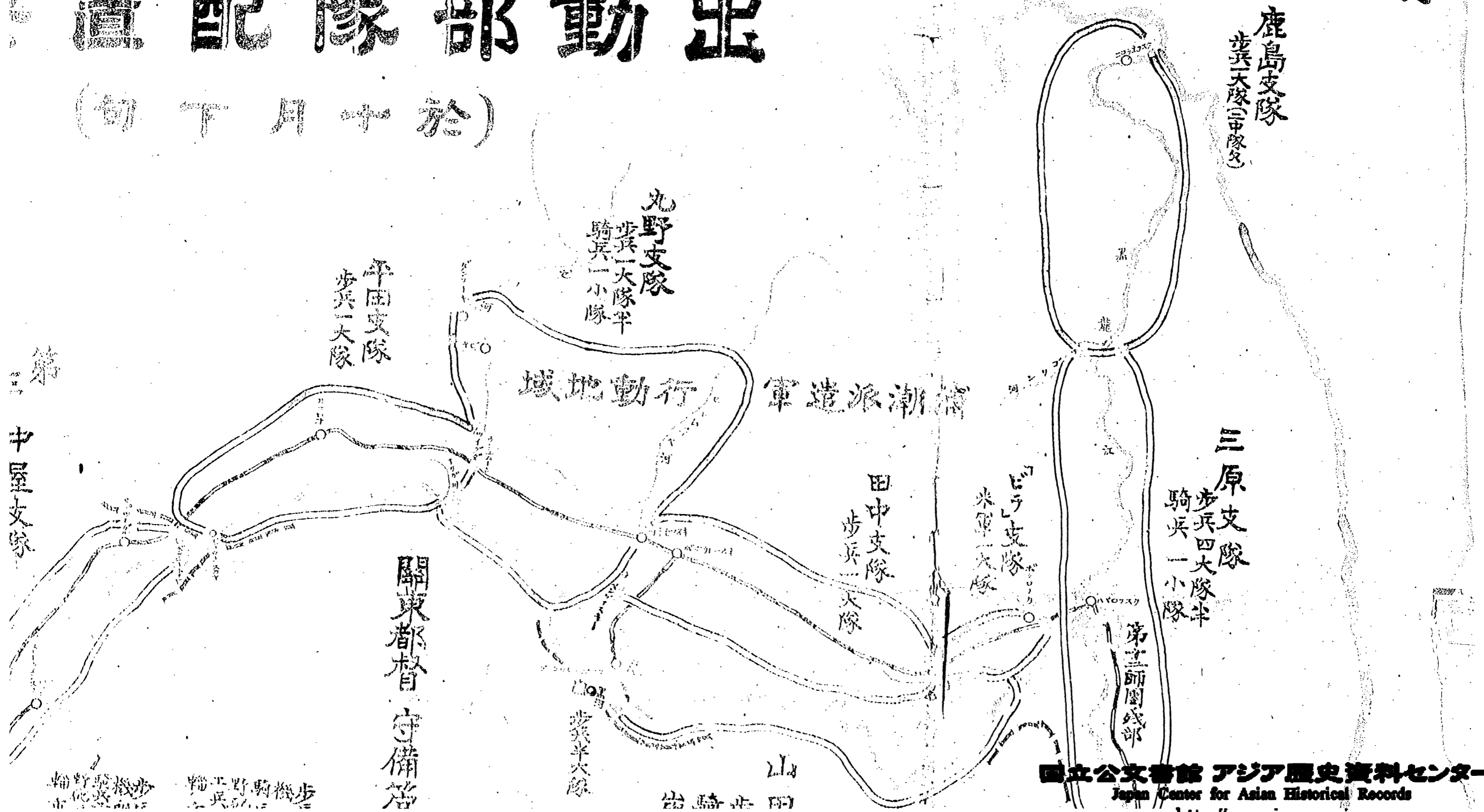
(於十月下旬)



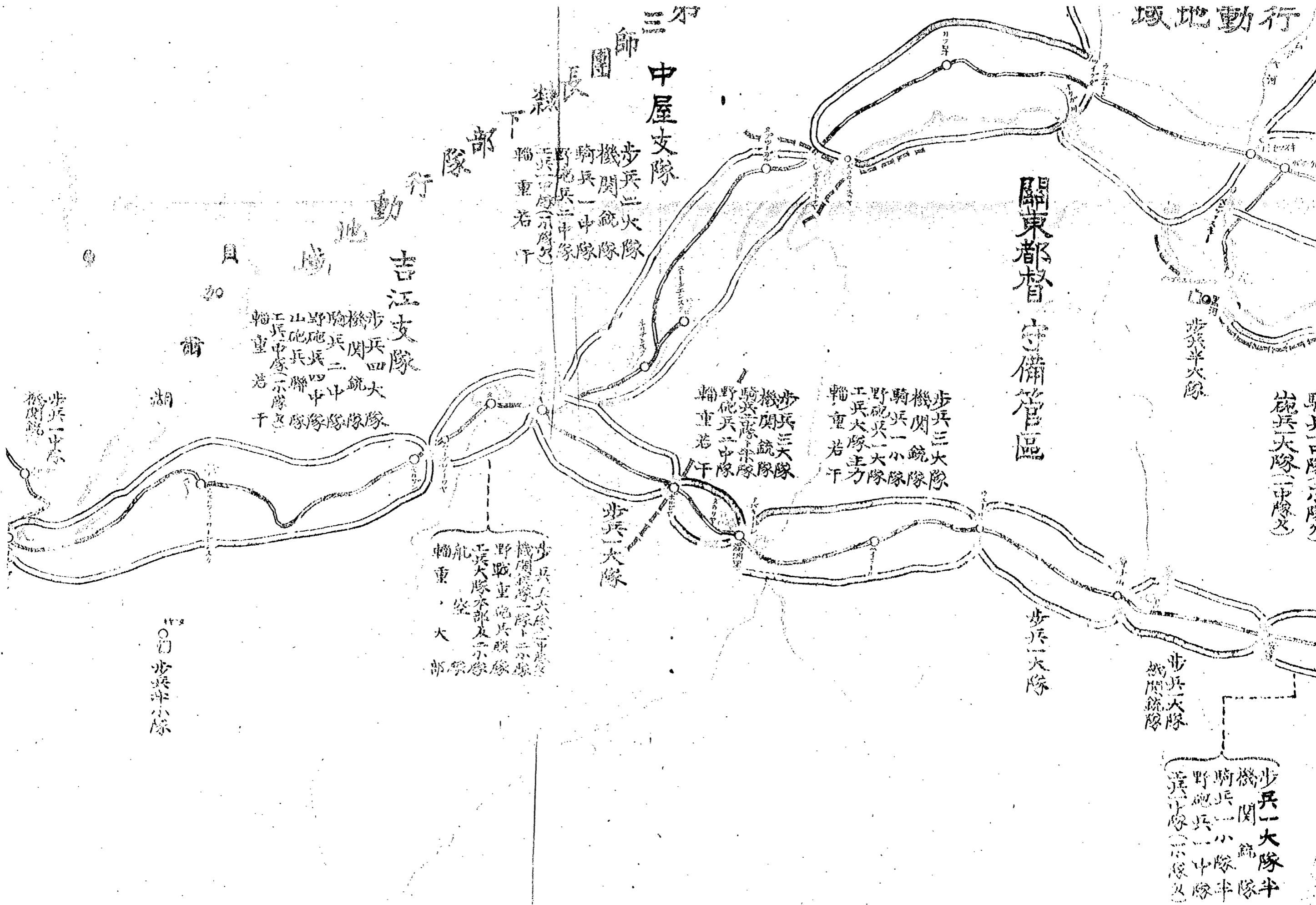
極秘

出動部隊配置圖

(於十月下旬)



關東都督 守備管區



中屋支隊

以比動行 早退外潮河

三原支隊
步兵四大隊半
騎兵一小隊

田中支隊
步兵一大隊

三上支隊
米軍一大隊

第三師團殘部

關東都督 守備管區

茨城半大隊

山田支隊
步兵一大隊半
騎兵中隊(小隊及)
砲兵大隊(中隊及)

步兵三大隊
騎兵中隊
米軍步兵三大隊
米軍步兵二大隊
英軍步兵中隊
英軍步兵中隊
航軍步兵中隊

步兵三大隊
騎兵一小隊
野砲兵一大隊
工兵大隊
輜重若干
步兵三大隊
騎兵一小隊
野砲兵一中隊
輜重若干

步兵一大隊

步兵一大隊
機關銃隊

步兵一大隊半
騎兵一小隊
野砲兵一中隊
工兵中隊(小隊及)

以南獨立守備隊

步兵一大隊

南部島嶼里派遺隊
步兵二小隊
騎兵一中隊
工兵中隊

大正七年十月三十日印刷

參謀本部第一部

極秘
參一發第五十六號

大正七年十月三十日

參謀總長

黑龍沿海兩州方面ノ情況

黑龍州方面ノ情況

十月二十五日「アレキセフスク」西方「スオドリ」ニ約四百ノ過激派集合シ
在ルノ報ニ接シ「アレキセフスク」附近ノ守備隊ヨリ歩兵一小隊及機關
銃ニテ派遣セリ而シテ此部隊ハ目的地ニ達シ異状無キヲ認メ二十
七日守備地ニ歸還セリ

沿海州方面ノ情況

沿海州方面ニ増派セラレタル支那國軍歩兵一大隊ハ北京出發鐵
道ニ依リ十月二十八日夕「ニコリスク」ニ到着シ浦潮派遣軍司令官ノ
隷下ニ入レリ

0714

極秘

參一發第五十七號

大正七年十月一日

參謀總長

封

通報

十月三十日露領及北滿洲方面派遣部隊一部(左記)内地に歸還せしめ此等部隊内地に陸時ヨリ當該動員(編成)管理師團長若ハ當該留守師團長、隸下ニ入ラシメラルル旨命令セラレタリ

左記

軍務局

第十二師團長隸下部隊中

輜重兵第十二大隊

獨立野戰重砲兵大隊

山砲兵第一大隊(一中隊欠)

山砲兵第一聯隊聯隊段列二小隊

山砲兵第一聯隊彈藥一縱列

7.11 官印受領

0715

近衛師團架橋縱列

第一師團架橋縱列

第三師團長隸下部隊中

輜重兵第三大隊(第一糧食縱列欠)

野戰重砲兵第四聯隊

野戰重砲兵第四聯隊輜重隊

山砲兵第一聯隊(第一大隊(中隊欠)及聯隊段列(小隊欠))

山砲兵第一聯隊輜重隊(彈藥(縱列欠))

關東都督隸下部隊中

第三師團第一第六兵站輸送縱列

第十二師團第六第六兵站輸送縱列

第六第一預部隊(歸還)同時(第十二師團長隸下)山砲兵

第一大隊(一中隊欠)一人馬ヲ以テ山砲兵獨立中隊(四門)ヲ編成

シ又第三師團長隸下ノ山砲兵第一聯隊(第一大隊(一中隊及
聯隊段列ニ小隊欠)ノ人馬ヲ以テ山砲兵獨立大隊(四門、中隊二箇)
ヲ同野戰重砲兵第四聯隊ノ人馬ヲ以テ野戰重砲兵獨立大隊
(十加四門、一中隊及十五榴四門、一中隊)ヲ編成シ各當該師團
ニ殘置セシメラルル筈ナリ

0717

動第八師

動員令

第五師團ニ於テ兵站電信中隊一箇ノ動員ヲ令セ

テル動員第一日八十月五日ナリ

大正七年十月四日午後三時

陸軍大臣田中義

海軍大臣加藤友三郎殿

第一班

陸

軍

0718

西密第六。六辨

山砲兵獨立大隊同獨立中隊及野戰重砲兵獨立大隊編成、付通牒

大正七年十一月十二日

陸軍大臣 田中義一

抄

海軍大臣 加藤友三郎 殿

十一月八日第三師團ニ於テ山砲兵獨立大隊及野戰重砲

兵獨立大隊第十二師團ニ於テ山砲兵獨立中隊ノ編成ヲ令

セラレ候條及通牒候也

陸軍

0719

五

復第一號

左記部隊ノ復員ヲ令セラル概
不十月中旬ヨリ十二月

中旬二百八日間ニ於テ復員スル豫定ナリ

輜重兵第三大隊 (糧食一縦列缺)

輜重兵第十二大隊

山砲兵第一聯隊

山砲兵第一聯隊輜重隊

野戰重砲兵第四聯隊

野戰重砲兵第四聯隊輜重隊

獨立野戰重砲兵大隊

近衛師團架橋縦列

第一師團架橋縦列

第三師團第一第二兵站輸送縦列

7. 1. 12
傳受領

0720

第十二師團第一第二兵站輸送縱列

輜重兵第三大隊補充隊

輜重兵第十二大隊補充隊

山砲兵第一聯隊補充隊

野戰重砲兵第四聯隊補充隊

大正七年十一月十一日午後三時三分

陸軍大臣田中義一

海軍大臣加藤友三郎 殿

0721

極秘

參發第五十八號

大正七年十一月十四日

參謀總長

供養

○

沿海、黑龍兩州及北滿方面情況

一十月下旬ニ於テ先出動部隊配置(十月三十日參發第五十五號)ハ

次、如ク變更セラル

(一) グバロオ、浦潮間ニ在リ、チエツクノ軍ニ天隊中「スパスカヤ」ニコリスク

間守備、一大隊(チエツク)第五聯隊(第四大隊)ハ最近其配備ヲ

撤シ、ウオルガニ戰線ニ於ケル友軍増援ノ爲ニ西進準備中ナリ

(二) 第十一師團長隷下歩兵第七十二聯隊、二中队ハ新ニ軍司令官

ノ直轄トナリ在リ、ニコリスクノ歩兵大佐田所成恭ノ指揮ニ屬ス

○
マク、軍ニ代リ「スパスカヤ」ニコリスク間ノ守備ニ任ス

從來田中支隊(長歩兵少佐田中勝輔)歩兵第七十二聯隊第三

大隊ノ守備セルビシ、アル今「アレキセフスク」間ノ地區ハ高橋支

軍務局

○

○

7.11.15

7.11.15
電報受領

0722

隊長歩兵少佐高橋虎次、歩兵第十四聯隊第二大隊ヲ以テ交
代守備ス

(四) 舊田中支隊ハ其中隊ヲコリスクニ送り、第二項ノ如ク田所大佐
ノ指揮ニ屬シ、其他ヲ以テ三原支隊ニ入ル

二十月末、高橋支隊ハアルハラ北方約十里地點附近ニ火炮及機關
銃ヲ有ス、過激派約三百名在リ、トノ報ニ接シ、小隊ヲ派遣シ、之カ

偵察中ナリ

近時アルハラ附近ニハ盜賊出没シ、高橋支隊ハ之カ討滅ニ努メ

ツツアリ

三、曩ニ天津附近ニ於テ編成中ナリシ伊太利軍(約千八百名)ハ編成
ノ完結ト共ニ鐵道ニ依リ北上シ、上月六日ハ哈爾濱ヲ發シ、西方ニ
輸送セラレタリ

軍務局

編第十五號

第一師團之於テ野戰電信隊本部一箇ノ編成ヲ令セラル編成
第一日八十二月四日ナリ

大正七年十二月三日午後三時三十分

陸軍大臣 田中義一

海軍大臣 加藤友三郎 殿



ナニク

陸軍

0724

覽

秘 參一發第六十號



通

報

大正七年十一月三十日

參謀總長

野戰重砲兵獨立大隊 輜重兵第十二大隊 第十二師團第一第二兵站輸送縱列ハ左記ノ如ク何レモ門司港ニ歸着セリ
曩ニ歸還ヲ令セラレタル部隊ノ内留守第十二師團長ノ部下ニ入ルハキモノノ輸送ハ茲ニ全部終了ス

左

記

野戰重砲兵獨立大隊

十一月二十六日

輜重兵第十二大隊

十一月二十四日

第十二師團第一第二兵站輸送縱列

十一月二十八日

軍務局

秘

參一發第五十九號

大正七年十月二十七日

參謀總長



通報



豫ヲ沿海州方面ニ出動中ナリニ近衛師團架橋縱列八十
一月十五日又第一師團架橋縱列八十一月十七日各其編
成地ニ歸着セリ



0726

極秘

參一發第六十一號

大正七年十二月六日

參謀總長

①

通

報

第三師團野戰電信隊本部ヲ後貝加爾州ニ派遣シテ
到著ノ時ヨリ第三師團長ノ隸下ニ屬セシメラル
該本部ハ十二月十五日頃宇品出發ノ豫定ナリ

0727

極秘

極秘

參一發第六十二號

大正七年十二月十一日

參謀總長

通 報

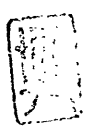
軍務局

露領及北滿地方派遣部隊統帥關係整理、爲十二月六日浦潮派遣軍司令官其他關係諸官ニ對シ左記要旨ヲ訓令ヲ發セラレタリ
該訓令ニ基ク出動部隊隸屬關係別紙ノ

左記

訓令

一 露國領土内及北滿地方ニ於ケル軍事行動之ニ關聯セル政務及交通ニ關スル事項ハ爾今浦潮派遣軍司令官ヲヒテ之ヲ統轄セシム
第三師團長隸下部隊第七師團長隸下部隊南部烏蘇里派遣隊及野戰交通部ヲ浦潮派遣軍司令官ノ指揮下ニ屬ス
二 浦潮派遣軍行動地域ト關東都督府管區トノ境界ハ吉林長



0250

0728

春、伏隆泉ヲ連スル線(關東都督守備管區ニ含ム)トス

三、浦潮派遣軍司令官ハ第三、第七、第十一師團長及南部烏蘇里派遣隊長ヲシテ從來ノ任務ヲ繼續セシメ且第七師團長ヲシテ第三師團

長隸下部隊ノ爲、軍行動地域ニ於ケル兵站業務ヲ擔任セシム

四、關東都督ハ爾今其官制ニ基ク固有ノ任務ニ服シ且後貝加爾州及北滿地方派遣部隊ノ爲、其守備管區ニ於ケル兵站業務ヲ

擔任ス

機

切

參謀第三三八六號

大正七年十一月十二日

參謀本部

秘

北露電報

十二月十日發

土耳其斯坦方面之情況

タシケン通信ニ依リ十一月二三日土耳其斯坦執行委員ハ英國

軍務局

及印度兵力土耳其斯坦ニ進入シ且其内政ニ干涉セントスルニ
對シ抗議ヲナスコトニ決セリ而シテ英國カ土耳其斯坦ニ對スル

效策ヲ一週間内ニ變更スルニアラサレハ左ノ方法ヲトルヘシト云フ

土耳其斯坦ニ在ル各聯合側ノ者ヲ特別ノ支配下ニ置クコト
土耳其斯坦ニ在ル英國人ハ英國軍隊カ土耳其斯坦ヲ撤退

土耳其斯坦ニ在ル英國人ハ英國軍隊カ土耳其斯坦ヲ撤退

0731

三總テ外國人ノ財産所有ニ関シ制限スルコト

北京電報

十二月十日發

國會ハ本月十三日ヲ以テ閉會スヘキ所ニケ月間延期スヘキ建議案
提出セラシ兼ニ衆議院ヲ通過セシカ本十日參議院モ亦之ヲ通
過セリ依テ右會期ハ來年二月十二日迄トナレリ
參議院副議長朱啓鈞辭職シ去ル四日選舉ノ結果田應璜
其後任トナレリ

0732